

2001. 11
霊性センターニュース
160号



〒611 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
宇治聖テレジア修道院(黙想)
TEL 0774-32-7016
FAX 0774-32-7457

1000

1000

1000



『信徒の召命と使命』 (9)

チプリアノ・ボンタッキョ神父

教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的勧告

第3章 宣教する教会における信徒の共同責任

福音宣教は、聖職者や修道者だけの責任ではありません。信徒もそのためにイエスから派遣された者として、福音宣教の責任を負わなければならないのです。これを強調するために、この第3章の標題に“信徒の共同責任”という表現が用いられています。

さて、この第3章は、たびたび聞かれる一つの質問に答えているように思われます。その質問とは、「なぜ、福音宣教をしなければならないでしょうか」と。

その答えとして3つの理由が上げられています。

1. 神との交わりにすべての人を招き入れるため
2. イエス・キリストからその命令を受けているから
3. 福音宣教は人類への愛の奉仕だから

この第3章は、信徒の福音宣教の場を示しながら、上記の3つの理由を説明しています。

1. 神との交わりにすべての人を招き入れるため

この理由は、使徒ヨハネの手紙 (1 ヨハネ1,3) に示されています。

「わたしたちが見、また、聞いたことをあなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちとの交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです。」

つまり、御父と御子との交わりという大きな恵みにすべての人があずかることができるように、わたしたちは福音宣教を行うのです。

2. イエス・キリストからその命令を受けているから

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」 (マルコ16,15) という命令です。

この命令にしたがって、“自分の家庭環境、仕事、故郷や母国を離れて” 海外宣教に出かける信徒もいます。確かに彼らは特別の召命を感じて、海外宣教に出かけると思います。

キリスト者みな、イエス・キリストから派遣されています。みなが自分の生活の場へ派遣された者として、そこで福音宣教を行うことを求められています。

3. 福音宣教は愛の奉仕だから

福音宣教は、人格の尊厳とその尊厳に由来する一人ひとりの人間の権利を明確にし、その権利を擁護し促進することによって人間社会に奉仕しているのです。

ここで使徒的勧告は、福音が解いている人格の尊厳と人間の権利についてかなり細かく述べています。ここでは全部紹介できないので、一読をおすすめしたいと思います。(No36-44)

福音は人間が神の似姿として造られたことや、イエス・キリストのきわめて尊い御血によってあがなわれたこと、また神の御子の受肉によって神の御子に深く結ばれたことを解いています。さらに人間が聖霊の神殿となるように召され、また神との交わりに招かれたことを解くことによって、福音は人間の尊厳を明確にしたのです。したがって福音宣教はすべての人を人間の尊厳の発見に導くのです。同時に人間の権利の認識にも導くものです。なぜならその権利はすべて人格の尊厳に由来するからです。

なお、この使徒的勧告において、人格の尊厳を意識している文化、人間の権利を尊重し、擁護して促進する文化は“いのちの文化”といわれ、逆にその尊厳を意識せず、人間の権利を脅かし、傷つける文化は“死の文化”と呼ばれています。

2001. 9. 16

(在俗者集会講話)



霊性センターカルメル

1. 聖書深読黙想会

- (1) 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) (2001年黙想会年間スケジュールのページを
ごらんください)。
(2) 宇治聖テレジア修道院 (黙想) (2001年黙想会年間スケジュールのページを
ごらんください)。

- (3) 名古屋 (日比野教会) 連絡: 小林厚 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115
お申込みは、ハガキ・TEL・FAX (052) 701-3685
聖書深読会・a. 日時・11/3 (土) 午後5.30~11/4 (日) 午後4.00
* 場所・〒611-0002 宇治市木幡御蔵山39-12
電話・0774(32)7016

(4) 大分聖テレジア修道院 (黙想)

連絡: 富田恵子 〒870-1125 大分市上宗方1803-3 TEL. 0975-41-4012

(5) a. 通信聖書深読

朝日カルチャーセンター (東京新宿) が通信講座のなかに『聖書深読』を
組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡: 北野真弓 〒163-0201東京都新宿区住友ビル私書箱22

TEL. 03-3344-2527

* 「聖書深読法の生いたち」 (奥村一郎)。オリエンス宗教研究所出版。

定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。3冊以上注文されれば 20%引。

オリエンス宗教研究所

FAX. 03-3325-5322

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEL. 03-3322-7601

2.

(1) 聖書と念祷の集い

指導 星野神父

日時: 11月24日 (土). 12月1日 (土)

* 急に変更になることもあります。その時は各自念祷をして御帰り
ください。

§ 黙想会年間スケジュール §

1. 信徒と奉獻生活者のための個人指導黙想会

スタッフ：星野正道師、福田正範師（以上カルメル会）

Sr. 中川享子（ケベックカリタス会）、他

(1) 6月 8日（金）16時 ～ 17日（日）朝食

(2) 10月19日（金）16時 ～ 28日（日）朝食

全期間参加の方優先ですが二泊からの部分参加も可能。

2. 奉獻生活者のための黙想会

(1) 7月24日（火）16時 ～ 8月 2日（木）朝食 福田正範師

(2) 8月20日（月）16時 ～ 8月29日（水）朝食 山田裕於師

(3) 12月27日（木）16時 ～ 翌年1月5日（土）朝食 福田正範師

2002年

(4) 1月25日（金）16時 ～ 2月 3日（日）朝食 福田正範師

3. 聖書深読黙想会

次の各土曜の夕食から日曜の16時30分まで

(1) 8月18日 ～ 19日 奥村一郎師

(2) 9月29日 ～ 30日 ”

(3) 12月15日 ～ 16日 ”

2002年

(4) 1月19日 ～ 20日 星野正道師

4. ウェンズデイ・リトリート

スタッフ：星野正道師

「21世紀の希望と喜び」（音楽瞑想、講話、分かち合い、ミサ、etc.）

(1) 5月23日（水）10時 ～ 16時

(2) 6月 6日（水） ”

(3) 7月11日（水） ”

(4) 10月10日（水） ”

(5) 11月14日（水） ”

5. ウィークエンド・リトリート

最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。

- | | | | | | | |
|-----|-----------|-----|---|-----------|-----|-------|
| (1) | 4月20日(金) | 20時 | ～ | 4月22日(日) | 15時 | 新井延和師 |
| (2) | 6月29日(金) | | ” | 7月1日(日) | ” | ” |
| (3) | 8月31日(金) | | ” | 9月2日(日) | ” | 中川博道師 |
| (4) | 11月23日(金) | | ” | 11月25日(日) | ” | 奥村一郎師 |

6. 特別企画黙想会

5月24日(木) 10時 ～ 26日(土) 昼食 和田 誠師

7. 大祭日のミサにあずかるために

チェックイン 午後3時から (講話なし) チェックアウト午前10時まで

- | | | | | | | |
|-----|-------|-----------|------|---|--------|----|
| (1) | 復活祭 | 4月14日(土) | 夕食なし | ～ | 15日(日) | 朝食 |
| (2) | クリスマス | 12月24日(月) | 夕食なし | ～ | 25日(火) | 朝食 |

8. ユース・リトリート —音楽で祈る黙想会—

7月7日(土) 夕食 ～ 8日(日) 16時 星野正道師

9. 男子青年黙想会

スタッフ：カルメル会士

- | | | | | | |
|-----|----------|-----|---|--------|-----|
| (1) | 5月18日(金) | 20時 | ～ | 20日(日) | 16時 |
| (2) | 11月2日(金) | 20時 | ～ | 4日(日) | 16時 |

以上の申込はカルメル会上野毛聖テレジア修道院へ。

皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355 (黙想)

上記が通じない場合は、

FAX. 03-3704-1764 又は、修道院TEL. 03-3704-2171 へお願い致します。ただし、黙想関係の受付窓口を一つにしておりますので、電話でのお問い合わせは、なるべく午前9時～午後5時までの間にお問い合わせ致します。

なお、受付が休みになっている際は、すぐにお返事できない場合もあります。その際は、恐れいりますが後日改めてお問い合わせ下さいますよう、お願い致します。

黙想会 案内

2001年 後半期 ~ 2002年 前半期

【聖書深読 黙想会】 (土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

2001年	9月 1日(土) ~ 2日(日)	新井 延和神父担当
	11月17日(土) ~ 18日(日)	中川 博道神父担当
	12月15日(土) ~ 16日(日)	新井 延和神父担当
2002年	1月19日(土) ~ 20日(日)	奥村 一郎神父担当
	2月23日(土) ~ 24日(日)	中川 博道神父担当
	4月20日(土) ~ 21日(日)	新井 延和神父担当
	5月18日(土) ~ 19日(日)	中川 博道神父担当
	6月22日(土) ~ 23日(日)	新井 延和神父担当

【青年のための黙想】 (高校生以上~35歳まで : 午後5時集合/午後4時解散)

・男性のため		
2001年	11月10日(土) ~ 11日(日)	カルメル会士
2002年	5月11日(土) ~ 12日(日)	
・女性のため		
2001年	11月 3日(土) ~ 4日(日)	中川博道神父、カルメル宣教会
2002年	6月 8日(土) ~ 9日(日)	

【一般のための黙想】

・日曜の黙想 (午前10時から午後4時まで)		
2001年	12月23日(日)	中川 博道神父
2002年	4月 7日(日)	未定
・木曜の黙想 (午前10時から午後4時まで)		
2001年	9月13日(木) 幼きイエスの聖テレーズの靈性	中川 博道神父
	10月11日(木) アヴィラの聖テレジアの靈性	新井 延和神父
	11月15日(木) 人生の黄昏	中川 博道神父
	12月20日(木) 神が人となった	中川 博道神父
・火曜の黙想		
2002年	1月22日(火) 一年の始めに	中川 博道神父
	2月19日(火) 四旬節の準備	アロイジオ神父
	3月12日(火) キリストの受難	新井 延和神父
	4月16日(火) 復活	中川 博道神父
	5月14日(火) 聖母マリアとともに	長岡 幸一神父
	6月18日(火) イエスの御心	新井 延和神父
・聖テレーズの黙想		ノートルダム・ド・ヴィ(在俗会)
2001年	9月29日(土)午後5時~ 30日(日)午後4時	
・グレゴリオ聖歌黙想会 (合唱経験者対象)		花井 哲郎氏
2001年	11月23日(金)午後4時 ~25日(日)午後4時	中川 博道神父
・四旬節の黙想		
2002年	2月16日(土) ~ 17日(日)	中川 博道神父
・7日間の黙想 (奉献者の参加可)		中川 博道神父
2002年	4月28日(日)午後5時 ~5月5日(日)午前9時	

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時集合/午前9時解散)

2001年	10月22日(月) ~ 10月31日(水)	中川 博道神父
	12月27日(木) ~ 1月 5日(土)	新井 延和神父
2002年	7月26日(金) ~ 8月 4日(日)	新井 延和神父
	8月17日(土) ~ 8月26日(月)	中川 博道神父
	9月10日(火) ~ 9月19日(木)	奥村 一郎神父

【申し込み】:はがき または FAXにて「氏名・住所・電話番号(・所属修道会名)」を書いてお申込みください。
:但し 一般の「一日黙想」は電話での受付もいたします。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

2001年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場 所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

日 程

ご指導

- | | |
|--------------------|-----------|
| ・ 6月23日（土）～26日（火） | チプリアノ管区長様 |
| ・ 8月 5日（日）～ 8日（水） | アロイジオ神父様 |
| ・ 9月13日（木）～16日（日） | 渡辺 幹夫神父様 |
| ・ 10月 1日（月）～ 4日（木） | 山田 裕於神父様 |
| ・ 11月15日（木）～18日（日） | チプリアノ管区長様 |

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

☆お申込み、お問い合わせは下記まで

TEL&FAX 03-3892-1378（阿部）



修道生活、司祭生活を考える若者の集い

NO. 19

この修道生活、司祭生活を考える若者の集いも皆さんのご協力で小さなあゆみをつづけております。この集いは特定の修道会へのおさそいの集まりではありません。教会生活を送って行く中で今までとはちがう生き方もあるのではないか、とと思っている若者がひとりぼっちでひざをかかえているのはよくない、同じように感じている仲間と出会い、ともに祈りながらあゆんで行けたら何かが見えてくるのではないか、ということで始まりました。もし君がそんなひとりだったらぜひ来てみませんか。

*日時 11月23日(金) 10時から16時まで、昼食は各自お持ちください。

*対象 30才くらいまでの独身男女青年

*スタッフ カルメル会司祭 星野正道

*費用 1000円

*内容 主日ミサ、講話、質問コーナー、個人面談等

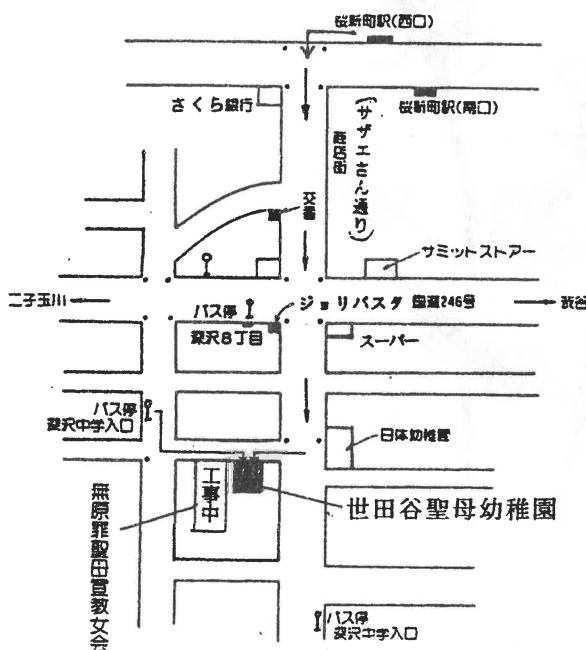
*持って来るもの 聖書、ロザリオ、筆記用具、昼食等

*連絡先 158-0093 世田谷区上野毛2の14の25 男子カルメル修道会
星野正道神父 TEL 03-3704-2171 申し込みの必要はありません。

*会場 無原罪聖母宣教女会修道院隣り、世田谷聖母幼稚園

〒158-0081 東京都世田谷区深沢8の13の16

東急田園都市線桜新町駅下車



〈地下鉄〉

① 渋谷駅より
田園都市線(二子玉川方面)
桜新町駅下車 徒歩12分

〈バス〉

② 渋谷駅より 南口
18番のりば(新道経由)
二子玉川駅行) いずれも
高津営業所行) 深沢8丁目下車
徒歩3分

③ 東横線都立大学駅より
成城学園前駅行 深沢中学入口下車
徒歩1分

④ 目黒駅より 深沢中学入口下車
荏菿営業所行 徒歩1分

無原罪聖母宣教女会
〒158-0081
東京都世田谷区深沢8-13-16
☎ 03-3701-3295

奥村一郎

そのままに

何も考えないで、何も思わないで、ただそのままに生きたい。

悲しいことも、楽しいことも、淋しいことも、つらいことも、あるけれど、
悲しみは悲しみのままに、楽しみは楽しみそのままに、

そのままに生きたい。

この地上のことは、みんな、いつかは消えて行く。

万物流転、嫌なことも、楽しいことも。

小鳥が小枝で、虫が草むらで鳴くように、

そのままに生きたい。

あまり窮屈なことをいわないで

あまり自分の好みを人に押し付けないで、

みんなと、そのままに自由な空気を吸って生きたい。

神様は、何一つ同じ素質を同じようにお与えにはならなかったのだから、

小さいものは小さいなりに、大きいものは大きいなりに、

そのまま、与えられたそのままを、恥ずかしがることも、恐れることもない。

そのままうけて、主を讃えよう。

狭い心にならないように。

間違っただって、いいじゃないか。

間違いも、そのままに受け取れば、すこしは謙虚の業になる。

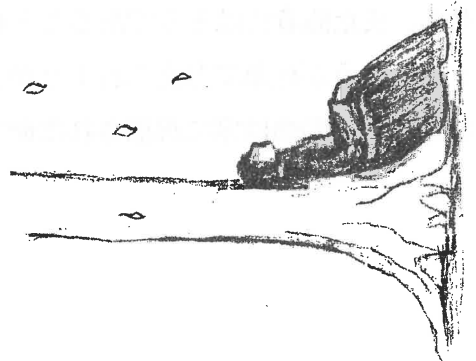
神様は、私たちが、失敗することを責められない。

そうしたことにこだわって、いらいらしたり、

無闇に、自分をいじめることを、嫌われる。

何も考えないで、何も気にしないで、

そのままに、うけて生きよう。



ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(38)

神から与えられた本来の自分を求めること

他者からひどく傷つけられた時、彼に対し敵対的な思いや、怒りや憎しみの感情、または復讐しようとする欲求を、まったく抱かないでいるということは、ほとんど不可能なことでしょう。これらすべては、私たちの内的なコントロールとは無関係に、おのずと生じてくるからです。わたしたちは、傷つけた相手に対し、どう言い返し、どう返してやるべきか思いめぐらしている自分に気づくのです。そのような状況の中で、呪いの代わりに祝福を選ぶには、信仰による途方もない飛躍が求められます。すべての衝動を乗り越え、穏やかになり、相手に命をもたらす応答を選ぶ強い意思が求められているのです。

時おりそれは、不可能なことのように見えます。しかし、わたしたちが傷ついた自分を乗り越え、神から与えられた本来の自分を求める時はいつでも、単に自分自身に命をもたらすばかりでなく、わたしたちを傷つけた相手にも命をもたらすのです。

(0901)

他者を祝福すること

祝福することは、相手に向かってよいことを言うことを意味します。私たちは、絶えず他者を祝福しなければなりません。両親は子供を、子供は両親を、夫は妻を、妻は夫を、友は友を祝福する必要があります。私たちの社会は、多くの呪いで満ち満ちていますが、わたしたちは、自分が足を踏み入れるすべての場所を、祝福で満たさなくてはならないのです。けれどもわたしたちは、非常に簡単に、神のいとし子であることを忘れ、この世界にある多くの呪いによって、わたしたちの心を曇らし暗くしてしまうのです。それゆえ、わたしたちは、みな神のいとし子であることを思い出さなくてはなりません。また他者にはそうであることを思い出させなくてはなりません。祝福が言葉で与えられようが仕草で与えられようが、莊嚴に与えられようが砕けた形で与えられようが、わたしたちの命は常に祝福された命でなくてはならないのです。

(0907)

九里 彰訳

(13)

一九九八年六月二十六日

蛭田幼一

東洋的キリスト教なぞつまらなかつたのだよ。だからその記事は読まなかつた。キリスト教に西洋も東洋もないというきみの意見には賛成だ。ただキリスト教があるだけだ。きみは純粹恋愛か。僕は自然流だ。自然に生きてきた。少なくとも自然に生きようとしてきた。行き着いたところがカトリックだったのだ。だんだん自分というものが分かつてきた。自分というものが分かれば、自分に回帰することができるな。



年間第31主日

「人の子は失われたものを捜して救うために来た」とイエスは言われた

(ルカ19:1~10)

今日の福音では、ザアカイの良い意志が明らかです。しかしイエスが主導権をとっています。彼は社会の落伍者に見えるこの人に関心を示します。私たちはどうでしょうか。社会の落伍者をどう扱っているのでしょうか。彼らを助けるためにあらゆる手段を用いているのでしょうか。

アディヴァシスというインドの少数民族の人々と働いていたとき、一度彼らの村を訪ねました。シャンカルという名の男性がいました。結婚した若い男性です。職がなく、父親は亡くなっていました。カトリックなので彼の畑も土地もヒンドゥー原理主義者に取り上げられてしまっていました。自分と家族が食べていく方法がありません。そこで彼は泥棒して家族を支え始めました。しかし家族はこのやりかたを喜びませんでした。またシャンカル自身心に平和がありませんでした。彼は自殺を考えたりもしました。ある夜、顔を星空に向けて助けてくれと絶望的な叫びをあげました。すると信じられないことが起きたのです。神と神の創造と共にいることを感じたのです。何が起きているのかわかりませんでしたが、心の中に平和を感じました。それまで決して感じたことのない平和です。ある力と目的が彼に明らかにされましたが、その経験を言葉で言い表すことはできませんでした。しかしその後人生が尊く、目的があることを疑うことはありませんでした。

シャンカルとザアカイの物語をどのように私たちの人生に適用したらよいのでしょうか。二人とも悪い生活をし、そしてイエスに出会い、その出会いによって顕著に変わりました。罪が人を幸せにすることはありません。ザアカイとシャンカルの良心は彼らをひどく苦しめていました。しかし彼らは自分を変え、やり直そうとする用意ができていました。イエスとの出会いが彼らを自由にし、自尊心を回復したのです。

イエスはわたしたちの人生に入り、シャンカルとザアカイの人生を変えたようにより良いものに変えたいと望んでおられます。イエスは無理強いをせず、私たちの自由に任せています。イエスが求めておられるのは、単なる言葉だけの变化ではなく、生活の変化です。私たちは皆多かれ少なかれ罪人です。イエスは私たちのそれぞれに異なった方法で近づきます。私たちのそれぞれがイエスはどういう方であるかを見るように心がけましょう。彼は私たちが生きるように死んでくださった、愛に満ちた兄弟です。同時にイエスにあるがままの自分を見てもらいましょう。自分の心を開き、すべての地上的弱さと、神および隣人たいして犯した不正を告白しましょう。イエスは治療方法を見出し、私たちが再び正しい道に戻してくださるでしょう。

(Beatrice)

年間第32主日

「復活の時、その女は誰の妻になるのでしょうか」(ルカ20:27~38)

イエスの時代の人々は死後の世界とか、魂の不滅をぼんやりと信じていたようですが、サドカイ派の人々は魂の死後の存続や報いなどを否定し、復活も信じていませんでした。彼らがイエスに論戦を挑みます。

旧約聖書には、レビラト婚というのがありました。兄弟が子供を残さずに死んだ場合、残された兄弟は死んだ兄弟の未亡人を妻とし、生まれた子供にその兄弟の名を継がせ、その名が絶えないようにするというものです(申命記25:5~6)。さて一方で神は一夫一婦制を理想とし(創世記2:18~24)、複数の妻を持った人は旧約の時代を通して何人もいたものの、イエスの時代には一夫一婦制が普通になり、これも神の御旨だと考えられていました。

彼らは極端な例を出します。7人の兄弟がいてまず長男が結婚しましたが、子供がないまま死にました。レビラト婚に従って、次男そして三男と次々に同じ女性と結婚しましたが、皆子供をもうけないまま死んでしまいました。そしてこの女性も亡くなりました。さてもし復活があるとしたら、この女性は誰の妻になるのでしょうかとサドカイ派の人々は問います。7人ともこの女を妻にし、子供をもうけなかったのです。条件は皆同じです。だから重婚になるとしか考えられません。ところでこれは一夫一婦制をお望みになる神の意志に反します。神は矛盾したことをお命じにならないはずです。そこで復活はないと結論することができると彼らは主張するのです。

これに対してイエスは、復活するのに相応しいとされた人々はもはやめとることも嫁ぐこともない反論します。彼らの考えは根本的に間違っている。彼らは復活が今人間が持っている肉体、精神のまま生き返ることだと思っている。しかし実はそうではなく、復活した人はもう死ぬことがなくて、天使に等しいもの、神の子となっているから、今の地上の生活のような結婚はもうないのだと仰います。それはイスラエル人が父祖と仰ぐ人たちと同じだと説明します。「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」と神ご自身が言われたのは、彼ら太祖たちが神の懐で今も生きていることを現しているのであって、復活もこれと同様になると言いました。彼らは霊の体、栄光の体を持っています。透明な存在であり、神の栄光を反映する器となっていて、まさに天使と等しい者になっています。

ルカ福音書にはないのですが、マルコとマタイの並行個所でイエスは、「あなたたちは聖書も神の力も知らないからそんな思い違いをするのだ」と手厳しく批判なさっています。神の思いは人間の思いをはるかに超えています。聖書を読み、それを合理的に矛盾がないように解釈しても、神の超越性、神の偉大な力に対して恐れを持っていないなら、このサドカイ人たちのようにひどい間違いを犯してしまうかもしれません。

(新井)

年間第33主日

主が最後に来られるとき用意がどのように出来ているだろうか

今日の福音の中で、イエスはエルサレムと神殿の破壊について語っています。ユダヤ人にとってこれら二つのものの破壊は世の終わりに等しいものでした。イエスが従う者の受けるべき迫害についてはっきりとあからさまに語った後も、支持者がたくさんいたのは驚きです。神は教会を浄化するために迫害をお許しになります。秋に嵐が木々を揺さぶると葉が落ち、木々は死んだように見えます。春になると新しい葉を出し、花を咲かせます。これがどの迫害においても起こります。たくさんの死んだ葉が落ちるでしょうが、教会の生命は新しくされつづけるでしょう。

死を考えることは私たちの多くにとって恐ろしいことです。心から遠く離れておきたいのですが、死だけは確実に来ます。大多数の人々はたとえ慢性病で死期が近づいていても、自殺とかテロでもない限り、もうすぐ死ぬと気づいていません。今この瞬間に各人がこの問題を自分に問いかけるべきです。今日神の審判席に呼び出されたらどうなるでしょうか。用意が出来ていたいと思うのがほとんどの人でしょう。恩寵のうちに死ぬことを願う私たちキリスト者は、神との友情の中にあることになるでしょう。

私たちは日々その時を知らずに生きていかなければなりません。今日の福音で、イエスもその日がいつであるかに少しも関心がありません。彼の唯一の関心と配慮は、弟子たちが人の想像力につきまとう恐怖から自由であることでした。イエスは「私がそれである」と仰います。つまり、私がそのもの、あなたたちの問題の唯一の解決であるといわれるのです。あなたに必要なことは私を信頼し、他の神を探しに出かけないことだと主は言いたいのです。このようにキリスト教的人生を生きる人は死を恐れる必要がありません。突然の死が襲うかもしれませんが、死の準備が出来ていることでしょう。

キリスト者として他のすべての人に模範を示さなければなりません。私たちは神が精神的肉体的恵みを与えてくださったとわかっています。またいつの日か神の与えてくださった才能をどう役立てたか申し開きをしなければならぬことを知っています。もし誠実に用いているのなら、天国への道が開かれるでしょう。乱用したり、無駄にしたりしているのなら、約束の地を見ることがないでしょう。

(Beatrice)

王であるキリスト(C年)

「今日、あなたは私と共に楽園にいる」(ルカ23:43)

主イエスは二人の犯罪人と一緒に十字架にかけられました。そのうちの一人はイエスを罵りました。もう一人の方は彼をたしなめ、さらに主に向かって「イエスよ、あなたの御国においてになるときは私を思い出してください」と頼みます。主は悔い改める盗賊に対して「今日あなたは私と共に楽園にいる」と仰いました。

彼は、主が「父よ、彼らをおゆるしてください。自分が何をしているのか知らないのです」と祈るのを聞いたのでしょう。そしてこの人が神から特別に愛された油注がれた者(メシア)だと言われているのは、政治的にユダヤをローマから解放するという意味ではないと直感したのでしょう。イエスという方が不思議な愛の方だと知ったのです。悔い改めている人間は考えも柔軟になっていて、自分の心にしみとおる愛の言葉を聞き逃さなかったのです。ところがもう一人の盗賊はそうではなく、メシアというものは民衆が待ち望んでいるローマからの解放者、軍事的指導者、偉大なダビデ王のような人間であるはずだとの考えに凝り固まっていました。彼は今の耐えがたい苦痛から逃れたいということだけを望んでいたのです、イエスの祈りの言葉も耳を素通りして行ったのです。

悔い改めた盗賊は、自分の靈魂を救ってくださいとは言っていません。ただ自分を思い出してくださいと頼んだだけでした。彼は自分が人生の失敗者であり、最も惨めな者、この世にいないほうがいと社会から判断された存在、まったく無価値な男だと痛感していました。とても我が魂を救いたまえとは口にできなかったのです。

主はこの痛悔する靈魂の謙遜な願いに、「今日、あなたは私と共に楽園にいる」と答えます。この「今日」ですが、ルカ福音書には何度も出てきます。「今日、ダビデの町であなた方のために救い主がお生まれになった」(2:11)、「この聖書の言葉は、今日あなた方が耳にした時、実現した」(4:21)、「今日、驚くべきことを見た」(5:26)「今日、救いがこの家を訪れた」(19:9)などです。この「今日」は神の支配の時であり、永遠の時でもあって、イエス(または神)の呼びかけに砕かれた心で答えるときに開かれる今日なのです。

ある中学生が母親につれられて、教会に熱心に通っていましたが、神の愛が彼には少しも理解できないままでした。ところがある日、この福音箇所が彼の心を捉えました。「今日、あなたは私と共に楽園にいる」とのイエスの言葉が彼の心に響き渡りました。イエスが呼びかけておられる声は何であるか、少年にはよくわかったのです。それは今のままの自分を主が受け入れてくれるということなのです。しかも「今日」そうしてくださるのです。その日が彼にとって永遠の今日となりました。その後の人生において苦しいときもあったのですが、この「今日」の体験によって乗り越えることができました。こういう「今日」を持てた人は幸いです。私たちも「今日」主と出会えるはずです。

(新井)

真の謙虚さ

(シラ書35・21)

謙虚な人の祈りは、雲を突き抜けて行く。

イスラエルの歴史には、長い流浪の時期が見られますが、その時、彼らは、人間の力ではどうにもできない出来事を前にして、しばしば自分たちの無力を思い知る経験をしました。それによって彼らは、“謙遜”すなわち神にすべてをゆだね、全面的に信頼する姿勢を学んだのです。イスラエルは、小さく貧しい民だったので、自分たちと永遠の契約を結ばれたお方だけを逃れ場とし、その方の言葉にだけ耳を傾けるということが、何度もありました。

また彼らが待ち望んでいたメシアは、ロバに乗ってシオンに入られる謙虚な王として示されました。イスラエルの神は、何よりも「謙遜な者の神」だからです。

このようなメシアの姿はすべて、イエスの内に実現しました。私たちは、イエスの生涯と教えから、真の謙遜を学ぶことができ、このように謙遜である時、主は私たちの祈りを聞き入れてくださいます。

謙虚な人の祈りは、雲を突き抜けて行く。

イエスの全生涯が、謙遜とは何かを教えるものでした。神でおられながら、イエスはおとめマリアを通して人となられました。そして、ご聖体のうちにパンとなられ、十字架上ではご自分を「無」とされました。

「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしに学びなさい」(マタイ11・29)と、イエスは言われました。またイエスは師でおられながらも、身をかがめて弟子たちの足を洗い、自ら最も卑しい仕事をされました。彼は人々に、小さな子供のようでありなさいと教え、エルサレムに入城された時には、ロバに乗って来られました。最後に十字架につけられ、私たちに天国を与えるため、ご自分は、肉体も魂もすべてを無にされました。

なぜイエスは、このようにされたのでしょうか。何が、神の御子をこのような生き方に駆り立てたのでしょうか。

イエスは、ご自分と御父との関係を私たちに示してくださったのです。愛ゆえに互いに「自分を無にし」、永遠に自分を与え合う、三位一体の愛のあり方を教えてくださったのです。

イエスは、この三位一体の愛を、すべての人に注がれます。この愛は、イエスがご受難と死において、完全にご自分を与え尽くされた時、頂点に達しました。

神はこのように、弱さの中でご自分の力をお示しになります。被造物の中でご自身を最も低くされ、そこから世を高く引き上げてくださる愛、それが神の愛なのです。

謙虚な人の祈りは、雲を突き抜けて行く。

ですから、真の意味で謙虚な人とは、他の人を愛するため、イエスに倣って自分を無にする人です。神が望まれることだけを果たそうという心で神の前に立つ人、イエスが生きてくださるよう完全に自分を空っぽにする人です。

このように生きる時、その人の祈りは神に聞き入れられるでしょう。神に向かって「アッバ、父よ」という言葉がのぼる時、それはその人が祈るのではありません。聖霊が唇にのぼらせる祈りなので、神に聞き入れられるのです。

イエスの生涯の頂点は、「激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その恐れ敬う態度のゆえに聞き入れられた」（ヘブライ人への手紙5・7～8）時でした。すなわち、イエスが完全に御父のみ旨に従い、ご自分のすべてを御父にゆだねながら、祈られたので、彼の祈りは聞き入れられたのです。

“雲を突き抜け”、神の御心に届く祈りとは、神の子の祈りです。自分のみじめさから立ちあがり、御父に信頼してその腕に身をゆだねる人の祈りです。

キアラ・ルービック

フォコラーレ本部

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055

お茶の時間

最近、感動することがありました。

その金曜日の夕方、私はあることでとても落ち込み、淋しい気持ちで、街を何となく歩いていました。『主よ、もう私は倒れてしまいそうです。』

ふと立ち止まると、そこは一度も入ったことのない街の図書館の前。ふらりと中に入りました。出口の近くに小さな喫茶室があったので、入って休むことにしました。「いらっしゃいませー」と一人の女の子が、澄んだ声で出迎えてくれました。彼女の笑顔は素敵で、目の前に薔薇の花が咲いたようです。「あなたに会えて本当に嬉しい」という笑顔なのでした。

『こんなに微笑んでくれるなんて．．．』精神障害を持ったお嬢さんでした。

ケーキとコーヒーを注文すると、やがて男の子が、注文したものをお盆にのせて持って来ました。でも彼は、まるで女王様に銀のお盆でも運ぶかのように、心を込めて、注意深くゆっくりと、忍び足で歩いて来るのです。

『こんなに大事に運んでくれるなんて．．．』彼も、精神障害者でした。

しばらくして、女の子の方が私の様子を見に来ました。そして、お水をまだ持って来ていなかったことに気づくと、「あっ！ お水がまだだった！ 申し訳ございません！」と澄んだ声で叫びました。その詫びる様子は、まるで大きな罪でも犯したように真剣です。急いでお水を持って来てくれました。

『こんなに、私のために真剣に仕事をしてくれるなんて．．．』

「ここのケーキ、美味しいんですよ！ 全部食べてみて下さい。私、全部試して太っちゃった！」彼女は、いたずらっぽく、また薔薇の笑顔を見せてくれました。『こんなに優しく話しかけてくれるなんて．．．』

二人の一生懸命なもてなしに、感謝のあまり、私は泣きそうになりました。小さな仕事を、障害を持ちながら真心を込めて喜んでしている彼らに、萎えていた私の心は生きる力を頂いたのです。でも彼らはそうとは知りません。私も、自分の知らないうちに、誰かのかじかんだ心へ、ひと握りの「ひなた」を差し上げられるような人になりたいと思いました。

丸山知佳子

諸所の企画についてのご紹介

I. ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会)

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

*いのちの泉へ 『私は神を見たい -カルメルの靈性に学ぶ-

講師：伊従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ 会員)

プログラム：午後2時～午後5時半、講話、祈り、お茶&質問の時間。参加費(200

申し込み：電話(18:00-21:30)・Fax(03)3594-2254または葉書で祈りの集い係まで

期日： 10/13(土)・11/10(土)・12/8(土)

II. スズランハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。：詳細を知りたい方は、下記へ

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

III. 風 の 家

指 導：井上 洋治 師 (東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

IV. 生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

祈りの集い①指導：マリア・デ・ジョルジ (10:00～15:00) (木)

年間テーマ「本当にこの人は神の子だった」+マルコ15章

11/8・12/13

研修会 ②テーマ 「日本における信仰の文化内開花」 フランコ神父

対象*若い宣教師 8/12(日)17:00～8/16(木)終了。

宗教対話活動 仏教者との交流 (11/3.(土))

*このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。(宿泊8名迄可)
ご相談ください。申し込み。TEL0968-85-3100 FAX0968-85-3186

V. 瞑想の家 東 光 庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師 (神言会) *詳細問い合わせは電話で

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

リーゼンフーバー研究会案内

2001～2002年

- キリスト教入門講座** 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- 神学読書会** 毎月第2・第4(第5)水曜日 18時40分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館(404号室)
キリスト教の基本的知識を持っている20代～30代の方。
神学の本を読んで信仰理解を深めます。要申し込み、定期的参加。
- 霊性研究会** 毎月第1・第3水曜日 18時40分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館(404号室)
キリスト教の基本的知識を持っている20代～40代の方。要申し込み、定期的参加。
- 聖書研究会** 木曜日 12時40分～13時25分 上智大学 7号館 316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。
- 坐禅会** ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
クルトゥルハイム 1階左の部屋 3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心** ● 4月27日(金)夜～5月4日(金)16時
6月1日(金)夜～3日(日)16時
8月12日(日)12時～19日(日)朝
11月22日(木)20時30分～25日(日)16時
2002年2月23日(土)8時30分～24日(日)16時 上石神井5400円
● 6月16日(土)13時～17日(日)16時
8月3日(金)17時30分～9日(木)13時 } 宝塚市
- ミサ** 水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(8月を除く)
- 黙想** ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂 どなたでも。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(8月を除く)
- 祈りの集い** 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月21日、5月19日、6月9日、7月7日、8月11日、9月8日、10月6日、
11月17日、12月8日、2002年1月19日、2月16日、3月16日
- 黙想会** 5月12日(土)10時～13日(日)15時、9月22日(土)10時～24日(月)15時、
12月1日(土)10時～2日(日)15時、2002年3月9日(土)10時～10日(日)15時
1泊4400円程度
- アガペ会** 説明会と集い 下記の日13時30分～ 20代～40代の信者
4月22日(日)、6月10日(日)、10月13日(土)、2002年1月26日(土)
S.J.ハウス会議室
- クリスマス会** 12月15日(土)16時30分～ 上智会館 5階 第6会議室 要申し込み
ミサ 12月23日(日)14時～ 上智大学内クルトゥルハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先** クラウス・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分
場所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館 3階 アルペホール

各 回 の テ ー マ

- 4/6 信仰の道—人生の意味を問う
4/13 聖書の人間像—人間の現状と使命
4/14 復活祭のミサ（18時、上智会館3階聖堂）
4/20 聖書入門—イスラエルの歴史と聖書の成立
4/27 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
5/11 神認識の道—理性と経験を通して
5/12-13 ●黙想会
5/18 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
5/25 歴史と信仰—神と人間との出会い
6/1 新約聖書の神理解—主なる父
6/8 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
6/15 救い主の役割—人類の待望
6/22 神の国—イエスの告げるメッセージ
6/29 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
7/6 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
7/13 イエスは誰か—イエスの自己理解
7/27 最後の晩餐—自分を与えるイエス
7/28 ミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
8/3、17 ○休み
8/10 イエスの受難—その史実と背景
8/24 イエスの死—その救済的意味
8/31 イエスの復活—今に生きるイエス
9/7 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス
9/14 聖霊—神の愛を受ける
9/21 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
9/22-24 ●黙想会
9/28 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
10/5 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
10/12 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け
10/19 御子としてのイエス—イエスの神との関係
10/26 父と子と聖霊—神の生命に与る
11/2 信仰の決断—支えられて生きる
11/9 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
11/16 自己実現と神の意志—生き方の規範
11/30 人間の弱さ—罪とは何か
12/1-2 ●黙想会
12/7 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
12/14 愛の心—キリスト教の本質
12/15 クリスマスのミサとパーティー（上智会館5階第6会議室）
12/21 隣人愛—他人の内にイエスに出会う
12/23 ミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
1/4 希望を持つ勇氣—未来に向かって歩む
1/11 霊の動き—福音による生き方
1/18 聖書と教会—信仰の基盤になる言葉
1/25 秘跡と教会生活—毎日を養う信仰
2/1 神の言葉—神との日常的な対話と黙想のしかた
2/8 結婚と独身—愛の道
2/15 信徒・司祭・修道者—誰もが召されている
2/22 仕事という人間の課題—社会に寄与して働く
3/1 人間の受難—悪とは何のためか
3/8 死—その実現と克服
3/9-10 ●黙想会
3/15 人生の完成—神の内に生きる
3/22 聖母マリア—信じる者の原型
3/29 ○休み
3/30 復活祭のミサ（18時、上智会館3階聖堂）

Ⅶ 三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場 所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」

申し込み先…… 佐々木明子

指導：雨宮 慧師（東京教区司祭） 対象：一般信徒

2001, 10月27日（土） 5:30Pm ~ 28日（日） 4:00pm

2002, 2月23日（土） 5:30pm ~ 24日（日） 4:00pm

6月29日（土） " ~ 30日（日） "

10月26日（"） " ~ 27日 " "

2003, 2月22日（"） " ~ 23日 " "

召命を考える祈りの集い

指導：星野正道師（カルメル会） 対象：女子青年信徒

2002, 2月10日（日） 5:30pm ~ 11日（月） 4:00pm

4月29日（火） 10.00AM ~ 5.00PM

9月23日（月） " "

11月23日（土） " "

2003, 2月11日（日） " "

黙想会

指導：星野正道師（カルメル会） *対象、一般信徒

11月30日（金） 10:00am ~ 4:00pm *参加される方は弁当ご持参下さい

2002, 5月28日（火） "

10月29日（日） "

年の黙想会

指導：星野正道師 *対象、修道女

2002, 7月23日（火） 5:30~7月31日（水） 朝食後解散

指導：奥村一郎師（カルメル会） *対象 修道女

2002, 12月26日（木） 5:30PM~2003.1月4日 朝食後解散

聖書に親しむ集い

講師：シスターマグダレナ・トレス・アルピ

対象：信徒

テーマ：エウカリスチアと司祭職——秘跡を通して

日時：毎月最終木曜日 2:00Pm ~ 3:30Pm *（7.8.12月はお休み）

キリスト教講座（カトリックの教えを学びたい方） 毎木曜日 10:00am. ~11:30am.

十字架の使徒職の集い

*対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期 日：第一グループ 毎月第2金曜日（2:00Pm. ~ 3:30Pm.）

第二グループ 毎月第1木曜日（2:00Pm. ~ 3:30Pm.）

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます（1:30Pm~200Pm）

Ⅷ マリアの御心会 (明泉会)

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2 TEL.03-3351-0297

1. 聖書深読黙想会 黙想の係 - 今村和子
2. 詩編：毎月第一火曜日 (第一火曜が祝祭日に当たった場合は第二火曜日)
3. ヨハネ福音書 第三水曜 6:30~20:00
*募集中：人数が集まり次第始めます
4. 祈りの集い：毎月第三土曜日18:00~20:00. 費用：300円
5. 「来てみなさい」結婚、修道生活、独身生活を選定したい方自分の人生について考えたい方

対象：20代、30代の未婚女性 参加費：500円(弁当持参)
(10:00 A M ~16:30) ミサあり。

Ⅸ 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax.0559-92-2120

祈りの集い (問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！)

- 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

(当日黙想の家の玄関に表示します。)

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL.03-3337-3291

修道召命の黙想会

- 日 時：11月22日(木) 20時より
11月24日(日) 16時まで
- テーマ：修道召命を考える
- 対 象：20代~30代未婚の女性信徒
- 指 導 者：シスターシュラツ、シスター柴田
- 場 所：調布修道院(182-0034 東京都調布市下石原3-55)
京王線調布駅より徒歩15分
- 参加費：4,000円(宿泊費、食事、等)
- 持参品：聖書、筆記用具、洗面道具他

お申込み、お問い合わせは

11月19日(月)まで下記へ

〒182-0034 東京都調布市下石原3-55 コングレガシオン・ド・ノートルダム

TEL(0424-82-2012)

FAX(0424-82-2163) Sr・山口

E-mail inoricnd@hotmail.com

WWW.cnd-m.com

2001年 8月～2002年 7月
内観黙想予定表

◎先の予定表と若干変わっています。開始の曜日や時間などにご注意ください。

およそ、年間を通じて隔週で予定しております。

◎参加費用は5泊6日で5万円、6泊7日で6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取り次いでおりません。

FAX・06-4804-5361

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などをお送りします。

☆ 2001年予定 ☆

T 4	2001・08/20(月)	2時から	—	08/25(土)	11時まで	5泊6日	神奈川・茅ヶ崎
I 1	2001・09/03(月)	2時から	—	09/08(土)	2時まで	5泊6日	兵庫・生野
K 3	2001・09/17(月)	10時から	—	09/22(土)	2時まで	5泊6日	京都・精華町
T 5	2001・10/07(日)	2時から	—	10/13(土)	11時まで	6泊7日	神奈川・茅ヶ崎
F 2	2001・10/28(日)	2時から	—	11/02(金)	2時まで	5泊6日	横浜・戸塚
K 4	2001・11/12(月)	10時から	—	11/17(土)	2時まで	5泊6日	京都・精華町
C 4	2001・11/25(日)	10時から	—	11/30(金)	2時まで	5泊6日	鹿児島・溝辺町
T 6	2001・12/10(月)	2時から	—	12/15(土)	11時まで	5泊6日	神奈川・茅ヶ崎
T 7	2001・12/23(日)	2時から	—	12/29(土)	2時まで	6泊7日	神奈川・茅ヶ崎

☆ 2002年予定 ☆

	2002・01/06(日)	2時から	—	01/12(土)	2時まで	6泊7日	場所未定
F 1	2002・01/20(日)	2時から	—	01/26(土)	2時まで	6泊7日	横浜・戸塚
K 1	2002・02/03(日)	2時から	—	02/09(土)	2時まで	6泊7日	京都・精華町
F 2	2002・02/17(日)	2時から	—	02/23(土)	2時まで	6泊7日	横浜・戸塚
P 1	2002・03/03(日)	2時から	—	03/09(土)	2時まで	6泊7日	兵庫・売布(女子)
C 1	2002・03/17(日)	2時から	—	03/23(土)	2時まで	6泊7日	鹿児島・溝辺町
F 3	2002・03/31(日)	2時から	—	04/06(土)	2時まで	6泊7日	横浜・戸塚
T 1	2002・04/28(日)	2時から	—	05/04(土)	2時まで	6泊7日	神奈川・茅ヶ崎
K 2	2002・05/12(日)	2時から	—	05/18(土)	2時まで	6泊7日	京都・精華町
T 2	2002・05/27(日)	2時から	—	06/02(日)	2時まで	6泊7日	神奈川・茅ヶ崎
P 2	2002・06/09(日)	2時から	—	06/15(土)	2時まで	6泊7日	兵庫・売布(女子)
	2002・06/23(日)	2時から	—	06/29(土)	2時まで	6泊7日	関東・場所未定
	2002・07/07(日)	2時から	—	07/13(土)	2時まで	6泊7日	関西・場所未定
P 3	2002・07/21(日)	2時から	—	07/27(土)	2時まで	6泊7日	兵庫・売布(女子)

祭壇にいと美しきマリアさま

置きてあり吾子贈りくれしぞ

マリア安達留子遺稿集

萩の歌より



上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院 (黙想) は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線 : 「^{かみのけ}上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線 : 「^{ろくじ蔵}六地蔵駅」下車徒歩15分

京阪バス : 六地蔵の町並バス停より御蔵山^{おくらやま}行きに乗り
「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共 : 0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って^{あけぼの}明礮橋を右折

男子跣足カルメル修道会

本の紹介

上智大学中世思想研究所編訳／坂口昂吉監修『中世思想原典集成12 フランシスコ会学派』（平凡社、2000年 9月19日配本、1049頁、定価〔本体〕10,000円）

本書（『中世思想原典集成』）第18回配本。13世紀初頭にフランシスコ会を創立したアッシジの聖フランチェスコは、キリストの貧しさに従う清貧を会の理念としたが、説教活動に役立てるための学問そのものは否定しなかった。そのためフランシスコ会士は、ドミニコ会士とともに、早くからパリ大学とオックスフォード大学における神学研究の中心的な担い手となった。本書は、フランチェスコの自筆文書のほか、13世紀に活動したフランシスコ会の主要な思想家の著作一八篇を取り上げ、説教・神学的論考から詩に至るまでの多彩な形式で展開された、初期のフランシスコ会霊性を辿る。フランシスコ会の清貧論争での急進派の「聖霊派」に影響を与えた、終末的預言を説くシトー会の異貌の思想家、フィオーレのヨアキムの著作も初めて紹介される。イタリア文学史上、ダンテ以前の最も重要な詩人とされる、ヤコポーネ・ダ・トーディの『讃歌（ラウデ）』は、三年前に物故された元本学比較文化学部教授・須賀敦子氏による未発表の遺稿である。



お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

-
- ・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 中尾豊子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾 豊子 〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台 3-15-5

☎045-941-3566

あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことからを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道

（此处为模糊不清的正文内容，疑似为毛泽东起草的宣言或讲话稿的一部分）

（此处为模糊不清的正文内容，疑似为毛泽东起草的宣言或讲话稿的一部分）

（此处为模糊不清的正文内容，疑似为毛泽东起草的宣言或讲话稿的一部分）

（此处为模糊不清的正文内容，疑似为毛泽东起草的宣言或讲话稿的一部分）

（此处为模糊不清的正文内容，疑似为毛泽东起草的宣言或讲话稿的一部分）